

実際の税理士業務を知る！

「現役税理士が語る、私の税理士経歴書」

税理士 櫻井 洋

なぜ、「税理士」か？

1．働き方に多様性がある

- (1) 独立開業 税理士の中で最も多い形態
- (2) 勤務税理士 大手税理士法人等に勤務し、組織の中で大型の案件を扱い、スキルを上げていく
- (3) 企業内税理士 ... 資格を活かして大企業などの財務、経理業務を統括する

2．安定して独立開業ができる資格である

～税理士の最終目標は、やはり「独立開業」である。

(1) 有資格者の独立開業の優位性

独立系の資格に基づいた独立開業は、その資格に守られる部分があるため、非常に安定している。

独立開業を目指す資格のうち、主なもの（文系）

弁護士

司法書士

弁理士

不動産鑑定士

社会保険労務士

行政書士

中小企業診断士 など

... 税理士と似たフィールドで活躍する公認会計士は基本的に「監査法人」に勤める「会社員」であり、独立開業する場合は別に税理士登録を行うことがほとんどである（これに関しては無試験）

(2) 資格の中での安定性

「税務業務」は国が認めた独占業務

税金の「申告納税制度」、つまり、納税者自らが税金の計算をして納税するという制度がなくなる限り仕事がある

企業と「顧問契約」を締結するのが一般的

... 毎月毎月安定した売上が立つ

3. いわゆる大型資格のなかで、比較的受験がしやすい

(1) トータル5科目の科目合格制

1科目ずつ受験可能、働きながらの受験が十分可能

(2) 科目選択制度

上手な受験戦略を構築すれば、短期合格が可能

税理士実務の現状

1. 一般的な税理士実務

(1) 年齢層が非常に高い

20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代
1.1%	10.4%	15.6%	19.3%	18.4%	29.1%	5.4%

60 歳以上が過半数

... これから税理士試験に合格して登録する若手税理士への期待が大きい

(2) 一般的な業務内容

会計業務

税務業務

... 企業や個人事業主と毎月顧問契約を締結するため、毎月安定した売上が見込まれる

2. プラスアルファの業務

他者との差別化を図ることによって発展する可能性が無限にある。

(1) ある分野に特化した業務展開

相続専門、医業専門など、自分の専門分野を構築し、そこに特化することで質の高い仕事を提供することができる。

(2) 会計・税務のみならず、その周辺業務に関するコンサルティング

企業にとって一番身近な有資格者が税理士である。管理部門の内部体制構築、コスト管理、上場支援などをはじめとする様々なコンサルティング業務が存在する。

(3) 企業の内部に入ってその企業の発展の手助けをする

特にベンチャー企業は財務、経理をはじめとする管理部門が手薄になりがちであるため、取締役や会計参与として直接企業の内部で仕事を行ったり、監査役として業務をチェックしたり、という機能が求められている。

(4) 税理士としての付加価値、知名度を高める

数多くの税理士の中で際立つためには、自分の付加価値や知名度を高める必要がある。

... セミナー、講演、書籍執筆など

3．税理士の魅力

- (1) 独立して仕事ができる
- (2) 仕事量のコントロールが可能
... 自分のライフスタイルに合わせた形で仕事を進めることができる。
- (3) 税の専門家として社会的責任を負うとともに、社会的信頼性が高い
... その分だけ日々の勉強、発展が必要であるが、得るものが大きい

これから税理士試験を目指す方へ

1．強い意志を持つ

税理士試験は最速でも2年を要するため、初志貫徹の精神が必要。

また、この強い意志がなければ税の専門家として、独立した立場として仕事を遂行することはできない。

2．将来のビジョン、計画を明確に

- (1) 何年で税理士試験に合格するか

受験にはお金もエネルギーも精神力も必要なため、具体的な計画を作成

- (2) 合格前後の就職はどうするか

税理士となるためには、原則として税理士試験に合格し、2年間の実務経験を積むことが要求される。この実務経験は合格前でも合格後でもいいため、どのタイミングから実務経験を積むかということも大切

- (3) 税理士登録後の独立のタイミングは

何事も最終的な目標やビジョンがあるとモチベーションがあがるため、自分の将来像を明確に描いておくことが大切

- (4) 自分の専門分野を何にするか

(3)とも共通するが、将来的にどのようなジャンルで活躍する税理士になりたいか、ということを決めておくとその目標に向かって楽しく勉強ができる